

学校・家庭・地域を結ぶ『お米とワラ』

— 交流事業の取組 —

上文殊公民館

1 上文殊地区の概要

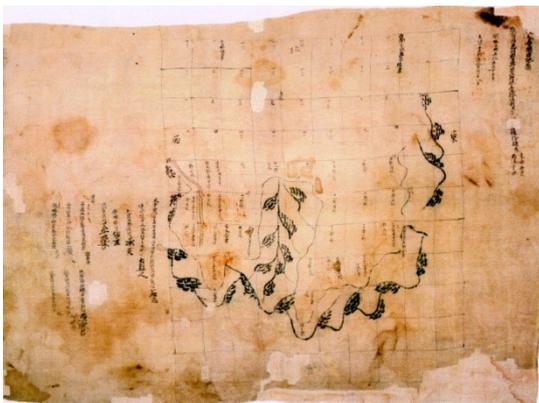
上文殊地区は福井市東南部に位置し、東には一乗谷、東郷地区、西には文殊山などの山々に囲まれている。また、江端川の最上流部に位置する、美しい自然と豊かな水に恵まれた大変静かな田園地帯である。

養老元年（717）ごろ、泰澄大師は文殊山を御開山、現在の徳光、東大味に神社を御開基された。また、奈良時代には、上文殊、文殊地区にまたがり東大寺荘園『糞置荘（くそおきのしょう）』が造られた。

東大味には、南北朝時代激しい戦いがあった三峯城跡、明智光秀公が朝倉義景に鉄砲指南役として東大味に移住していた時の屋敷跡、更に、明智光秀公の木像を祀った明智神社等、多くの文化財が残されている。

2 東大寺お米送り事業

奈良時代の東大寺荘園『糞置荘』の古図は、今も正倉院に御物として残されており、現在の地図と一致していることで知られている。



【足羽郡糞置村 開田絵図 天平神護2年（766年）】

また、東大寺の建立時に、足羽郡一の豪族である生江臣東人（いくえのおみあずまん）が役人として参加した。さらに、大仏殿を建てる大工の監督の一人として、足羽郡出身の益田縄手（ますだのなわて）が参画している。

これらの史実に基づき、平成11年より『東大寺お米

送り』事業を、上文殊地区総合開発委員会を中心に実施している。

献上米はコシヒカリを昔ながらの手法にこだわり、手植え・無農薬・天日干しで収穫を行っている。お田植式、刈り取り式では、献上田にて五穀豊穡を願う神事を行い、その後地区住民と小学生、一般参加者と共に田植えや稲刈りを行う。平成27年で17年目を迎え、地区内はもとより地区外にも広く知られた事業となっている。



【東大寺秋の大祭参列者 光明皇后法会】

3 『お米とワラ』～三世代交流事業を通して～

平成20年度より「学校・家庭・地域住民」が互いに連携し、全員参加で伝統文化を継続、体験する事業『三世代交流～お米とワラ～』を開催している。

地域の高齢者から教わる稲の生長観察や、ワラを使った数々のワラ細工を編む世代間のふれあいは、上文殊地区にしかない互いの学び場となっている。

季節感を味わいながら、年間を通じて交流するこの3つの事業を紹介したい。

	稲の生長観察	技の伝承	三世代交流
期間	田植え～刈り取り～精米	8月、9月、11月	2月
関係スタッフ	地域ボランティア（5名）	ふるさとの達人、老人会 地域ボランティア（15名）	ふるさとの達人、老人会 PTA、地域ボランティア（70名）

(1) 稲の生長観察

週一回、小学5年生を対象に稲の生長観察を地域ボランティアと共に実施。田植えから収穫、さらに籾すりや食味までを体験することにより、地域の特産であるお米への愛着を持たせている。この生長記録を、2月の「三世代交流」の場で発表するために、継続した観察を続けている。

(2) 技の伝承

はさばたてや、ワラ細工、しめ縄作り等を高齢者が小学生を対象に伝承している。

技を次世代に継承するため、高齢者自身が指導方法をふるさとの達人から学び、事前学習をしたうえで、子どもたちに伝えている。地域の素晴らしさ、人の温かさを感じられるよう、互いの学びの場としている。

地域の高齢者が先生となり、普段体験したことのないことを教える難しさ、伝えることの大切さをこの事業から学んでいる。

【はさばにあがり作業をする子どもたち】



【ふるさとの達人に細縄編みを習う】

(3) 「三世代交流」

お米送りの里上文殊の一年の集大成といえる事業である。

5年生による稲の生長観察発表や、お米の学校。高齢者から親子で学ぶかきもち編みや、縄結び。また、収穫したお米を使ったポン菓子の実演と試食を実施している。過去には農機具を地域から集め、展示や作業体験、この地域に伝わる味『アッポ（くず米の団子）』

の再現や伝承料理の試食など、年々工夫を凝らした取組になっている。この日一日で五感をフル活用して楽しめる事業である。

4 新しい公民館

平成26年に完成した新公民館は、外観は『お米送りの里』上文殊にふさわしく『米蔵』をイメージしつつも、現代風に造り上げている。1階のホールは、大きな窓を全て開放することで、広いホールと外のスペースを一体化して利用することができる。新しくなった公民館のお披露目をおこなったオープンフェスティバルでは、公民館を利用している自主グループや若者グループ、地元の小中学生、そして当地区にゆかりのある団体が様々な活動を披露した。



【建物を開放し、効果的に活用している】

公民館の玄関に入ると、東大寺別当書の『お米送りの里』と書かれた木彫りの看板が出迎える。また、大ホールには東大寺から新公民館建設に際し、寄贈された東大寺大仏殿の瓦（のき瓦、平瓦）が展示されている。これらは東大寺とのつながりを示す貴重な展示品として、地区外の来館者にも強い印象を与えている。

生涯学習の場、さらに地域コミュニティ機能の保持・活性化を図る場として、また、住民の融和親睦を図るオアシスとして『笑顔と温かい心で信頼される公民館』をめざしている。

公民館が地区の歴史や事業に密接に関わっており、次世代を担う子どもたちを豊かな自然の中で大切に育てることがうかがわれます。公民館新築を機に、ますます公民館が地域づくりの拠点となることを願っています。